

○劉福姫\* 田中辰明\*\*

(\*お茶大・院、\*\*お茶大)

目的： お互いに隣国である韓国と日本の伝統住宅を比較し、どういう共通点がありどういう相違点があるのかを調査し、考察を加える。

方法： 韓国人が韓国で生活をし、日本人が日本で生活をしているとそれぞれ独自の住宅の特徴が不明確になってしまうものである。そこで発表者のうち田中辰明は韓国の伝統住宅を訪問調査し、また留学生として日本に滞在する劉福姫は日本の伝統住宅調査し、互いに何が類似し、何が相違するのか討論を行った。

結果： 朝鮮動乱などで韓国の伝統住宅の多くは破壊された。しかし地方には伝統住宅はまだ残り、月城の良洞や安東の河回も現在も存在する朝鮮時代の同姓集落である。両班の住んだ上流の住宅を含み、伝統的な庶民の住宅も現存している。ある人は日本の住宅は開放的であり、韓国の住宅は閉鎖的であるというし、その逆の意見もある。また慶州近くの厚い瓦屋根と土塀を見ていると奈良の町並みに迷い込んだのでないかと言う錯覚に陥るほど良く似ている。韓国の住宅は基壇を介して建物が大地に接している。また風水地理説を用いて土地の自然と和合する住宅が建てられた。儒教の影響が強かった韓国の上流住宅では先祖を祭る祠堂が住宅にある場合が多い。韓国住宅のマダンに韓国の特徴を指摘する人もいる。しかし決定的な相違は韓国の上流住宅から庶民住宅に至るまで必ず床暖房設備であるオンドルがあるのに対し、日本の住宅にはそれがない。多く漢民族が日本に渡来し多くの分化を伝えたであろうに何故オンドルが日本に伝わらなかったのが興味のある問題である。